

歌舞伎の魅力は大発見

伝統芸能コース

歌舞伎



講師
かわち けんじ
河内 厚郎

略歴

演劇評論家・文化プロデューサー
一橋大学法学部卒業。羽曳野
市民大学学長。阪急学園池田
文庫理事。夙川学院短期大学
教授。「関西・歌舞伎を愛する会」
代表世話人。兵庫県芸術文化セ
ンター特別参与。大阪センチュリー
交響楽団評議員。歌舞伎学会、
楽劇学会会員。大阪市「咲くや
この花賞」受賞。著書に『淀川も
のがたり』『私の風姿花伝』など。

advice points

- ビデオなどで、事前に歌舞伎公
演を見ておくと講義がわかりやすい。
- 大阪市北区・中央区を中心に、
数多く散在する歴史・文学ゆかり
の地を地図で調べておく。

より発展的な ワークショップを 実施するために

- 受け入れ科目を社会科と
して、日本史や郷土史と合
わせて学ぶ。
- 大阪の歌舞伎ゆかりの
地マップを作る。
- 歌舞伎が他の日本の三
大劇(能、文楽)とどのよ
うに違うかを調べる。
- 道頓堀の松竹座で歌舞
伎公演を鑑賞する。

目的

- 歌舞伎が現代の日本人の文化、とりわけ大阪の庶民文化に
密接なつながりのあることを理解する。

効果

- 自分たちの日常生活が、古くから伝わる文化や歴史の蓄積の中で
成り立っていることを実感する。

到達点

- 現代人の立居振舞や言葉の中にある伝統を、歌舞伎を通じて感じ、体得する。



事前学習

「市川団十郎・海老蔵親子のバリ公演取材・
勧進帳の舞台と舞台裏」ビデオを鑑賞する。

ワークショップの流れ(2日間く2コマ/日)

ビデオを参照しつつ、歌舞伎の興行の仕組み、
舞台構造、演出法、主な演目、鑑賞の仕方のほか、
江戸時代の「道頓堀五座」などについて講義



歌舞伎ゆかりの地を歩いて、
各所の解説を聞きながら散策する。
淀屋橋・八軒家浜・熊野古道・天神橋・
大阪天満宮・川端康成生誕跡記念碑・
天満天神繁昌亭・お初天神・曾根崎新地など



質疑応答

事後学習

参考資料(「歌舞伎舞台の図説」ほか)を読んで
レポートを提出。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

大阪の新聞・雑誌・テレビには紹介されていない歌舞伎の魅力や歴史性に触れると同時に、「歩く」ということの意味、「まちを知る」ということの重要性を体感してもらえたと思う。

先生の感想

歌舞伎の概論と上方文化に触れることで、生徒たちは、江戸時代の文化や大阪の歴史・伝統に興味をもったと思う。まちを散策しながら大阪の文化・歴史に触れ、歌舞伎ゆかりの地が多いことなど様々な発見があり、生徒にも教師にも良い経験になった。歌舞伎の現場の話も盛りだくさんで、歌舞伎はまさに「体感」できる総合芸術だと感じた。

生徒の感想

- 現代の「女性らしい」しぐさが、歌舞伎の所作がルーツだと聞いて驚いた。
- 歌舞伎や人形浄瑠璃は、身近な実際の出来事を題材にしているものもあると聞いて、元々は情報伝達のための媒体だったのかも知れないと思った。
- 大阪のまちを散策して、登場人物の家の跡なども間近に見られて親近感が湧いた。